

第十三番 清水阿弥陀堂の御詠歌 (十念調)

(きよみずの御詠歌)

松 濤 基 編曲

♩=40



○ × × ○ × × ○ × × ○ × ×
 [詠頭] あみ だ ぶーと ----- [斉唱] とこ ぉーえ となーえ ーて



○ × × ○ × × ○ × × ○ × ×
 まどーろ まー ん ----- なー が き ねむーりーと



○ × × ○ × × ○ × × ○ × ○ × ×
 な-り もこ-そす れな ー ャムあ ---- みー



○ × × × × × ○ × × ○ × ×
 だ ャー ----- ぶ ----- つ -----



○ × × ○ × ○ × ○ ○ × × ○
 — — — な — む — — あ — — み



× × ○ × × ○ × × × ⊗ ×
 い — — だ — — — — — ぶ — — — — — つ —

第十三番 山城の国 清水阿弥陀堂

「睡眠の時十念を唱ふべしといふ事を」

阿弥陀仏と 十^{とこえ}声^{こえ}唱えて まどろまん 長^{ねふり}き眠^ねと なりもこそすれ
 (法然上人御作)

清水寺の本堂より奥の院へ行く手前に阿弥陀堂があります。法然上人は清水寺で円頓戒を説かれ、次にお念仏の教えをねんごろに勧められたのです。清水寺の沙弥印蔵はこの教えを聞き、深く阿弥陀さまの御本願を信じ、ひたすらお念仏の教えに帰依されることとなりました。そして文治4年(1188)、阿弥陀堂(瀧山寺と呼ばれていた)を道場として不断念仏三昧を始められました。恵心僧都御作の阿弥陀如来像が安置され、後柏原天皇(1464～1526)の「日本最初常行念仏道場」の勅額が掲げられています。

題意 夜やすむ時、必ずお十念を唱えなさい。

大意 老少不定は世の習いです。何時どこでどんな事が起こってもあわてないように、平素からお念仏に励みましょう。そして夜眠る前には必ず、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と十遍のお念仏をして眠りにつきましょう。たとえそのまま長い眠りになっても、悔いのないように致しましょう。これはお念仏を信じる人達のたしなみであります。

ポイント注意

- 半拍休止からの声の立ち上がりはアクセント強めに。
- 息つきは弱声部をいかして。